



首書

源氏物語

子習  
五十三





五十三

○河才世六卷名海舟君 乃とるも 泪の川れやきせよと有より手習と云初卷の中は四ヶあり野山は雪  
 とらりてもと有わると例のうくあらけ手習ゆるのいよよと云初と云初号手習卷  
 ○花宇治九詞とて卷の名とせり董大将廿三歳の春より廿四春までのうらなひの年は晴蛉巻と同年はともと  
 ○弄 董廿六七歳晴蛉巻の初と同時分也海舟とて後の翌日のうら也其年暮て次年春のうら也  
 ○そのはよ川よりうらうは都 河よりうら僧都とハ擬恵心僧都事也直世之後隱居横川谷仍号横川僧都母  
 事妹 安養尼事相似なり 傳記曰件僧都者大和国葛城下郡人父有占部正親女清原氏也母夢天人下  
 按一廿三男見畢覺後四人共可成聖人欽思之其後彼母令祈請子息於觀音 長谷寺之処夢中僧來  
 令与一珠見畢不久懷妊生男子即恵心僧都是也成人之後有事縁登山出家投戒修字色子葉  
 阮成論義支擇聞世 下略  
 花 是董大将の廿三歳がうらうのうられと其比といハ大さうの時とていハ平 横川よりうら僧都ハ  
 恵心院の保信僧都よりいふとていハ此僧都ハ慈恵僧正の才子とて横川は住居て顯密の教  
 ひろめわり五をらあまうの妹といハ安養の尼といハいハ人よりうら世宗といハいハ往生せハ也此  
 物語ハ小野尼といハ手習君とやういハ人ハ也

○古さうもん 弄 保信僧都の母長谷は觀音の靈  
 夢あつて保信と生しるるありさうらうのうらよは  
 われハ初瀬よまうてまうとらうらう人ハ妹のうら  
 母のうらうらうらうらうらうらう也何の古さ  
 もいハく相叶とハ心得へくも  
 ○じつさく 細 僧都の才子也母ハ具ハる也  
 ○いそりのうらけ 或抄とていハうら小野とていハい  
 道とていハ也

うらあわら川よあわらうら  
 とらひひていさうらうら  
 たり平あわり乃らうらうら  
 のいりうとあうらうらうら  
 わらうらあまうらうらうら  
 しあまうらあまうらうら  
 てい乃あうらうらうらうら  
 らあうらうらうらうらうら  
 ともあまうらうらうらうら  
 あうらうらうらうらうら  
 このわらうらうらうらうら  
 まあうらうらうらうらうら

○山の河 惠心僧都妹 安養尼 終焉之時有必可  
來會之由僧都契約云 僧都于日山麓之間自尼  
許不遣云 老病少憑罷 成畢今一度對面大切  
雖然限日數之山麓難出浴可然者乘輿可來會  
西坂本之由返答畢於下松邊相待之處輿已到來僧  
都近寄褰簾見之処尼上既逝去相共輿到清義  
房 修學院清義先心經七卷讀之次以火界咒令加持  
惠心又奉念地藏則獲生云 古事談  
○心の孟 孟八十のまゝるれ也

山の河 惠心僧都妹 安養尼 終焉之時有必可  
來會之由僧都契約云 僧都于日山麓之間自尼  
許不遣云 老病少憑罷 成畢今一度對面大切  
雖然限日數之山麓難出浴可然者乘輿可來會  
西坂本之由返答畢於下松邊相待之處輿已到來僧  
都近寄褰簾見之処尼上既逝去相共輿到清義  
房 修學院清義先心經七卷讀之次以火界咒令加持  
惠心又奉念地藏則獲生云 古事談  
○心の孟 孟八十のまゝるれ也

○三密の加持 加者佛三密也持者行者三業  
也彼三密と此三業と持とるも加持と云也  
○花の金峯山精進の後夜於庭前礼拜  
金峯山百度の或抄夕負卷の委註也

○巴の神 河古人尺云長神也然而中神と天神  
有中央故也 帚木卷勘付畢  
○花の故朱萑院 李部王記天慶元年十月三日太上天皇  
陽成御宇治院遊獵山野又天曆八年十月十日  
朱萑院の庄牧勘文云治院萱原庄被留彼  
院の今案朱萑院の寛平法皇と也とれと此物  
語の朱萑院の以前六条院のゆへと云る朱萑  
弄

巴の神 河古人尺云長神也然而中神と天神  
有中央故也 帚木卷勘付畢  
○花の故朱萑院 李部王記天慶元年十月三日太上天皇  
陽成御宇治院遊獵山野又天曆八年十月十日  
朱萑院の庄牧勘文云治院萱原庄被留彼  
院の今案朱萑院の寛平法皇と也とれと此物  
語の朱萑院の以前六条院のゆへと云る朱萑  
弄

院の領領といふもさるるも或るも又別のも  
不祥

○やまのりのおさる 弄 宇治院の留主の人物語  
とてあやと翁ハり残居ハる人し  
○あそまはハ或抄 翁の初也あそまはハる人し  
あそまはハる人し

○いとよりあり 或抄 僧都の初也  
○大也を名 巴抄 病人ハ公方不よりハる人し

○あつひちと 弄 宇治院にハる人し 僧都の初也  
ハる人し

○あつひちと 弄 宇治院にハる人し 僧都の初也  
ハる人し

○あつひちと 弄 宇治院にハる人し 僧都の初也  
ハる人し

○あつひちと 弄 宇治院にハる人し 僧都の初也  
ハる人し

あつひちと 弄 宇治院にハる人し 僧都の初也  
ハる人し

あつひちと 弄 宇治院にハる人し 僧都の初也  
ハる人し



花五通の中ニ神境通と云う有是ハ故違報通神  
 通と云是別有報狸の云ハ變と云ハ妖通と云  
 龍と云の雲ノ采て云と云と云ハ報通と云過去ノ  
 同行と云て龍と云ハ報と得と云て果報の  
 通と云心也聲聞菩薩佛の通とハ神通と云是ハ  
 出世の依行と云て得と云と神變不思儀と云通也共  
 内ニ衆の通ハ菩薩不及菩薩の通ハ佛及人ノ道理  
 の人ノ也  
 ○又ハ花ハ厨子ハ食物と調と云也公私  
 とも構と云名也

花五通の中ニ神境通と云う有是ハ故違報通神  
 通と云是別有報狸の云ハ變と云ハ妖通と云  
 龍と云の雲ノ采て云と云と云ハ報通と云過去ノ  
 同行と云て龍と云ハ報と得と云て果報の  
 通と云心也聲聞菩薩佛の通とハ神通と云是ハ  
 出世の依行と云て得と云と神變不思儀と云通也共  
 内ニ衆の通ハ菩薩不及菩薩の通ハ佛及人ノ道理  
 の人ノ也  
 ○又ハ花ハ厨子ハ食物と調と云也公私  
 とも構と云名也

○又ハ花ハ厨子ハ食物と調と云也公私  
 とも構と云名也

○又ハ花ハ厨子ハ食物と調と云也公私  
 とも構と云名也

○又ハ花ハ厨子ハ食物と調と云也公私  
 とも構と云名也

花五通の中ニ神境通と云う有是ハ故違報通神  
 通と云是別有報狸の云ハ變と云ハ妖通と云  
 龍と云の雲ノ采て云と云と云ハ報通と云過去ノ  
 同行と云て龍と云ハ報と得と云て果報の  
 通と云心也聲聞菩薩佛の通とハ神通と云是ハ  
 出世の依行と云て得と云と神變不思儀と云通也共  
 内ニ衆の通ハ菩薩不及菩薩の通ハ佛及人ノ道理  
 の人ノ也  
 ○又ハ花ハ厨子ハ食物と調と云也公私  
 とも構と云名也

○まゝのいんげん 孟 篠寺の村也

○山びこの河つぎせしむるふとふとてふと山びこの  
一入せらるまてふせしむるが貫之

○ひいむとみせ 或秘 曼珠寺といふととらふと  
一う 麩とや又とらふとふとふとふと

○こまふとふと 万水 法原の村也

○熊のつとまつ 孟 篠寺の村

○まろひいんと 孟 のいんげんといふととらふと  
一う 麩の宿といふと

○まろひいんと 或秘 此翁食物といふととらふと  
一う 麩といふと

○まろひいんと 或秘 熊のつとまつといふと僧都の村

○あより神り 孟 法原の村  
或秘 あよりたといふととらふと

あより神り  
あより神り  
あより神り  
あより神り  
あより神り  
あより神り  
あより神り  
あより神り  
あより神り  
あより神り

あより神り  
あより神り  
あより神り  
あより神り  
あより神り  
あより神り  
あより神り  
あより神り  
あより神り  
あより神り



○あるところの花大本の下よめはうめよ本玉の  
鬼と名付なり

○むらかりとん河文珠樓目無鬼事心日記に目  
鬼と号し花朱の盤と云物語あり文珠樓の  
目鬼のものと云るは法師のうめよとて  
まろふと云ふ也

○この河辛花いうく  
と云

○あつとゆり弄浮舟身をも翌月の夜は也

○うてといふハ或極るよとて死か下と

○まろのふろ 孟僧都の河

○池よとらく 孟まろとく  
或極僧都の河殊勝也

あつとゆり弄浮舟身をも  
うてといふハ或極るよとて  
まろのふろ 孟僧都の河  
池よとらく 孟まろとく  
あつとゆり弄浮舟身をも  
うてといふハ或極るよとて  
まろのふろ 孟僧都の河  
池よとらく 孟まろとく

あつとゆり弄浮舟身をも  
うてといふハ或極るよとて  
まろのふろ 孟僧都の河  
池よとらく 孟まろとく  
あつとゆり弄浮舟身をも  
うてといふハ或極るよとて  
まろのふろ 孟僧都の河  
池よとらく 孟まろとく

○マヤラサレ 花 領也  
 ○人よぢくせ 弄人よ被逐らる也或被惡人逐  
 らく經文もあり  
 ○人よはりこれ 花人よ弄られし心也  
 ○これよゑの 花 横死也非分の死を云也藥味  
 經より九の横死と出せり

○このころ 巴郡 退く 無勿跡と云也  
 益牙子との河魚用と云也

わがくしよおのりもの  
 りあせむしんこおのりな  
 りんざんしんこおのりな  
 のしよまじり物おのりな  
 めま佛りりかまおのりな  
 しんまおのりな  
 まじりおのりな  
 とまじりおのりな  
 りんざんしんこおのりな  
 このおのりな  
 りんざんしんこおのりな  
 りんざんしんこおのりな

○このころ 花 乃々也

○花車より 花 尼君これまていまいまて治めり  
 ようろつた也

わがくしよおのりもの  
 りんざんしんこおのりな  
 のしよまじり物おのりな  
 めま佛りりかまおのりな  
 しんまおのりな  
 まじりおのりな  
 とまじりおのりな  
 りんざんしんこおのりな  
 このおのりな  
 りんざんしんこおのりな  
 りんざんしんこおのりな

三十一

。とろくのふと花是ハ僧都の初也

。とろく寺とて花是ハ妹の尼の初也  
細寺ハ初瀬也

とろくのふと花は僧都の初也  
とろく寺とて花は妹の尼の初也  
細寺ハ初瀬也

。とろくひんりの或衆法師どもに云うし

。とろくひんりの花僧都の妹ハ右兵衛督と  
云人の妻とてわしとむまらとくひんり  
のあまら道心ありて尼とてわしとくひんり  
ひんりハ中おとくひんりの妻とてわしとくひんり

とろくひんりの花僧都の妹ハ右兵衛督と云人の妻とてわしとむまらとくひんりのあまら道心ありて尼とてわしとくひんりひんりハ中おとくひんりの妻とてわしとくひんり



○あひまゝ 細 僧都のつらさ也  
○水 妹の危の初也才子よしの初也

○らんろうり 或按 尼君の甘房ともなるへ  
○ちとすめを 花 目と見上也又見ひく也

○いんくくくくくく 花 妹の危の初しむめれうら  
よみんくくくく也

○はらんらうらう 瓦水 先世の宿縁と

○いささゆらうも 細 手習君の初

○あまうの人 何 不用  
○人はんせそ 細 て文字うらうし

らんろうり 或按 尼君の甘房ともなるへ  
ちとすめを 花 目と見上也又見ひく也  
いんくくくくくく 花 妹の危の初しむめれうら  
よみんくくくく也  
はらんらうらう 瓦水 先世の宿縁と  
いささゆらうも 細 手習君の初  
あまうの人 何 不用  
人はんせそ 細 て文字うらうし

らんろうり 或按 尼君の甘房ともなるへ  
ちとすめを 花 目と見上也又見ひく也  
いんくくくくくく 花 妹の危の初しむめれうら  
よみんくくくく也  
はらんらうらう 瓦水 先世の宿縁と  
いささゆらうも 細 手習君の初  
あまうの人 何 不用  
人はんせそ 細 て文字うらうし

孟尼君の詞也

○うらむしうらむハ万水大木の下れりといふ

○うらむしうらむハ万水大木の下れりといふ  
身とるもんとあつハ不具ゆへとて

○人の心まじらん河假色迷入猶看是真色迷入  
不慮過此 白氏文集古塚枕  
細変化のりのこと

○二日ハうら 弄院(日)うらうら二日ハうらうら

○ゆらゆらハ 細母の尼君と世女とと也

○その日より 或按字治は僧都アト入あつて

○細舟の葬送也 河葬送 雜事

うらむしうらむハ万水大木の下れりといふ  
身とるもんとあつハ不具ゆへとて  
人の心まじらん河假色迷入猶看是真色迷入  
不慮過此 白氏文集古塚枕  
細変化のりのこと  
二日ハうら 弄院(日)うらうら二日ハうらうら  
ゆらゆらハ 細母の尼君と世女とと也  
その日より 或按字治は僧都アト入あつて

うらむしうらむハ万水大木の下れりといふ  
身とるもんとあつハ不具ゆへとて  
人の心まじらん河假色迷入猶看是真色迷入  
不慮過此 白氏文集古塚枕  
細変化のりのこと  
二日ハうら 弄院(日)うらうら二日ハうらうら  
ゆらゆらハ 細母の尼君と世女とと也  
その日より 或按字治は僧都アト入あつて



ひえさうりしよ 河伊勢物語日小野まきうていひ  
えの山けりてふれい雪いとさう 小野大原也仍比  
穀坂下と云也小野にぬ大原村也布薩と云物よ見  
えりり皇太后官大原に任はるる時号小野皇太后官  
花大二条因白の女觀子尼も成て大系に任はるる  
時の人小野の皇后と号せり大原小野郷の内也

よみてそのよ 細病者ふれ道まて逗留の有也

ひらのつらひしてしらす  
ゆもやまがせける留とめて  
ゆもつらむとねんひえさう  
よ小野しらすらるるあう  
ねんむらうさふねうつく  
いそそかかづんこむさく  
ふりたるおどりのておま  
かりしつらむ後おらあま  
うのさるのさるむとひ  
んすまのさるむとひ  
うつくさむとひのさる  
りもなむとひのさる

○僧都へのあり 孟山さうふれいせ

○おののあり 泉僧都さ合ふふれい  
隠密

○りららら 孟人のさうふれい  
これと我むとあふさうと  
とて尼君の心也

○ようみ中人の 承治をいへ

下しむとらなる  
まがひねらむとら  
くかうたひひもましが後  
のさるむとひのさる  
しむとらなる  
まがひねらむとら  
くかうたひひもましが後  
のさるむとひのさる  
しむとらなる  
まがひねらむとら  
くかうたひひもましが後  
のさるむとひのさる  
しむとらなる













○まよまろ男の弄 霊の人よ現とるまよ  
白官とる也

Handwritten text in a cursive script, likely a transcription of the text above. The characters are fluid and connected, typical of historical Japanese calligraphy.

○かいのしと 花如本意也身とるまよとる也

Handwritten text in a cursive script, continuing the transcription from the right page. The style is consistent with the previous page.

○ありの昆も 弄 六月の時分まよとるし

○うつ心 或極 本心うつこ時 女ハ食ふもまづうつこ  
正氣もうつて中くりのまづうつこ

○いろれはく 万水 姓の尼君此句也

○いろくちろこ花 温氣也うつまづうつこ也

○あつふくも 万水 くのせ房うつこ也

○はよはるこ 或極 浮舟の心也

○さくろも 孟 ちろこうつこ也

○うつろはく 万水 尼君の心也

○尼ようつこよ 万水 手習君の句也うつこハ  
うつこ也

Handwritten musical notation on the right page, consisting of a series of rhythmic lines with various note values and rests.

Handwritten musical notation on the left page, continuing the series of rhythmic lines with various note values and rests.

○心づきぬれし 孟二面一出家よるうしてとては  
舟やうらむらむら心も人のいふまきよるる本性うれは  
ちのて出家よるる人の心もえの心もせされぬ  
とてしるるうらむら

○うらむらやり 世執 養性してとてしるる也

○心づきぬれし 孟二面一出家よるうしてとては  
舟やうらむらむら心も人のいふまきよるる本性うれは  
ちのて出家よるる人の心もえの心もせされぬ  
とてしるるうらむら

○きしし也 或抄 さうくとお

○とせしるる 河百年よとせしるるつらむらとこれと  
こふしおりのをよるゆ 花葉乎中持年とらむら  
よとひつらむらつらむら也つらむら老人の堅海の  
つらむらよとらむらとらむら六年とらむらとらむら  
をとりし也  
○天人の 細 世段悉皆竹取の翁けくやひめとてさ  
時の心もてしるる

○さうくとお 或抄 尼君の羽也

○心づきぬれし 或抄 情のこらむら

○心づきぬれし 孟二面一出家よるうしてとては  
舟やうらむらむら心も人のいふまきよるる本性うれは  
ちのて出家よるる人の心もえの心もせされぬ  
とてしるるうらむら



○わやくし 或抄 海舟の釣也

○うかのう 花 是よりハ海舟君の尼君より也

○我より 或抄 我身の上ハありし

Handwritten Japanese text in cursive style, corresponding to the first column of the left page. It appears to be a transcription of the text on the left page.

○うや雅と 花上の句よいなりき天人のあまきつら  
をんごんやまよしきろよあをせうやひめをハ  
いし出せり也  
并 竹取くや雅と云ふ家のうちひくき八月十  
五夜天よのありしありて葉よ行取て説き行

○州ありし 花 僧都の母君と云也

○むまのの尼君 花 小野尼ハ右大衛督の後室也上  
よまうせり又夢海橋巻うと云し

Handwritten Japanese text in cursive style, corresponding to the second column of the left page. It appears to be a transcription of the text on the left page.







○孟あれ母は決して右近とあひあは

○細山里よ

○尼七八人そ 孟 小野の躰也

○或抄

○万水 白官著のあ

Handwritten text in cursive style, likely a transcription of the text above.

○孟

○侍従

○河上東門院のう

○都鳥我

Handwritten text in cursive style, likely a transcription of the text above.

都鳥よ似まほしくいふ心也

○世中よりわらぬ花拾遺世中はあなとせしむるも年毎くさるるをたふさぐ心

細まへ宇治にて母への贈答の書と出する也別の別、弄ハ無用也。此事ハ東屋巻より三茶東よりの

○くらくらりりり 細尼君もくらくらりり也

○山より 或松僧都は随逐して山麓を

○中將こよ 或松小野(立寄り)あり

○このうらむして花 中將も小隨身と具せりまて前の巻と發せり也

弄 中女將もささぐり也近き比也也

○このいやくすて 弄 白宮のま

細海舟の心は薫のまゝと出さる

○このともいし 弄 宇治の山里よりあやそその村也

はまてもむのあゝあゝあ  
 らんらんらんあゝあゝあ  
 うらうらひふたれらんらん  
 んはまらんらんあゝあゝあ  
 まらんらんらんらんらんらん  
 むらんらんらんらんらんらん  
 ろらんらんらんらんらんらん  
 するららんらんらんらんらん  
 んらんらんらんらんらんらん  
 んらんらんらんらんらんらん  
 んらんらんらんらんらんらん  
 んらんらんらんらんらんらん

ようらんらんらんらんらん  
 のらんらんらんらんらんらん  
 ろらんらんらんらんらんらん  
 ろらんらんらんらんらんらん  
 ろらんらんらんらんらんらん  
 てらんらんらんらんらんらん  
 ろらんらんらんらんらんらん  
 ろらんらんらんらんらんらん  
 ろらんらんらんらんらんらん  
 ろらんらんらんらんらんらん  
 ろらんらんらんらんらんらん  
 ろらんらんらんらんらんらん

○色くのうらさぬ 或抄 中將のこゝれ人くせ

○丹七の 年六せとあり本しわうりれそも有る  
心ちるゝぬ 或抄 心ちるゝぬあせ

○年ころのつり 細 尼君の羽

○心のち長よ 細 中將の心せうううううううう  
中將の羽せ

○臣くるれか 細 尼君のせうれうう信のゆくと  
のつり 疎遠ううう

Handwritten musical notation in Kuzushiji style, consisting of vertical lines and various symbols representing pitch and rhythm.

Handwritten musical notation in Kuzushiji style, consisting of vertical lines and various symbols representing pitch and rhythm.









○まろしうと細中將の心也

○くふとてハ細中將の心也

○まろしうと 万水 中將の心也  
○まろしうと 万水 中將の心也

まろしうと細中將の心也  
くふとてハ細中將の心也  
まろしうと 万水 中將の心也  
まろしうと 万水 中將の心也

○何よりかハ河拾遺  
○花人の物いひさうくく世よ  
○細手習君くろふは任ぬや  
○人の物いひと弄小野のくハ中將の人のもの  
○いとちひおとらりていふ也

○まろしうと 或按 尼君心也 但刊也

○まろしうと 万水中將と手習ふあはれ也

何よりかハ河拾遺  
花人の物いひさうくく世よ  
細手習君くろふは任ぬや  
人の物いひと弄小野のくハ中將の人のもの  
いとちひおとらりていふ也  
まろしうと 或按 尼君心也 但刊也  
まろしうと 万水中將と手習ふあはれ也





○このつゝ 或は法師のまゝてハニハク  
のうづりやせん

○世春とらき 或は法師の君の返答也

○哀よりきり 或は 中将の

○じり物語 弄 任吉物語はゆるりあり

○このつゝ 或は 小野よ用意

○河賄賂 或は ちりり

○細 中將の刊

○中將の心也 細 尼君の刊也

くまのつゝ 或は法師のまゝてハニハク  
のうづりやせん  
世春とらき 或は法師の君の返答也  
哀よりきり 或は 中将の  
じり物語 弄 任吉物語はゆるりあり  
このつゝ 或は 小野よ用意

河賄賂 或は ちりり  
細 中將の刊  
中將の心也 細 尼君の刊也

物比ひまき口 花物比ひまき口也

うらまき心 花うらまき心直の心也

あかりとまき心 細昔の由じまき心也

細 母事也

おはろとまき心 孟 中将序とまき心也

わがけの奇 中将也 細かき風よういふまき心  
あつ野名不といふまき心といふまき心といふ  
まき心といふまき心といふまき心といふ  
河海あつといふまき心といふまき心といふ  
まき心といふまき心といふまき心といふ

おはろとまき心 孟 手習とまき心といふまき心也

あかりとまき心  
うらまき心  
あつ野名不  
まき心  
河海あつ  
まき心

あつ野名不  
まき心  
河海あつ  
まき心  
あつ野名不  
まき心  
河海あつ  
まき心

細世のりて人まはるくせしむる也

うらへて奇 尼君也 巴狹手習君とて  
出て如母の跡のいふれ

細 中將の心也

或狹 中將の心也

河いづの河いづの秋とて

或狹 女將の心也

或狹 手習の心也

まららの山乃河よれとてまららの山は  
細 西義ありて八世尼君の  
後八手習君の性ありて

はらりあはるしとて  
うらへて奇 尼君也  
巴狹手習君とて  
出て如母の跡のいふれ

まららの山乃河よれとて  
細 西義ありて八世尼君の  
後八手習君の性ありて  
まららの山は



〇ゆつひぬきまきこ 世世中將父をさむつゆ人也

〇世よ心ちうしき 弄中將の心とてし屈しるひきて  
心ちうしきよつゆ人となりぬしきとて世世中將の  
の君れ物ちひんくつゆ世世中將の心とてし屈しるひきて

〇ちりょうせきりぬ 細尼君の刊

〇例の人よて 弄 手習君の心とてし  
いしうてあつ河古今花とてあつしき  
鳥花うてあつるの名よてあつきた  
弄うてあつ也  
〇のころとてあつ 弄 年老る人よて世世中將の  
心とてあつきた

〇ちりょうせきりぬ 花世よつゆ世世中將の心とてし屈しるひきて

〇ちりょうせきりぬ 万水 尼君手習君よつゆ刊也

ゆつひぬきまきこ 世世中將父をさむつゆ人也  
世よ心ちうしき 弄中將の心とてし屈しるひきて  
心ちうしきよつゆ人となりぬしきとて世世中將の  
の君れ物ちひんくつゆ世世中將の心とてし屈しるひきて  
ちりょうせきりぬ 細尼君の刊  
例の人よて 弄 手習君の心とてし  
いしうてあつ河古今花とてあつしき  
鳥花うてあつるの名よてあつきた  
弄うてあつ也  
のころとてあつ 弄 年老る人よて世世中將の  
心とてあつきた  
ちりょうせきりぬ 花世よつゆ世世中將の心とてし屈しるひきて  
ちりょうせきりぬ 万水 尼君手習君よつゆ刊也

○人よ物よこいん 細 手習の心づらひ也  
或按 手習 尼君へ返答也

○あふ心う秋と 細 主人の引哥をうきそていづ我とら  
さうけと取るしてくううくも也

○松りの奇 中将也 細 松り 尼君とていづ我が  
とまううととて 米つとてハ我がのわうとてハ  
ゆふきのあまはうとて也  
巴按 一ととてううとていづハ文彦の音まもるは  
これとてハ 或按 せめて此邊奇とて手習とて也

○こやうよういん 或按 手習の心也

くやうハ 花 びりのうも也

○名残さうし 巴按 草子地

○秋の野乃奇 尼君也 細 野へのあまをうき  
ゆみ宿れ 彦をさしてハあまうとて也

○こらうりうり 巴按 尼君のあまう手習の心しうも  
とあうりも也  
うらうもとて 細 手習君の心也

人よ物よこいん  
あまの心づらひの  
しづかきとてあま  
まうりうりうり  
あまの心づらひの  
しづかきとてあま  
まうりうりうり

松りの奇  
とまううととて  
ゆふきのあまは  
これとてハ  
こやうよういん  
くやうハ  
名残さうし  
秋の野乃奇  
こらうりうり

あまの心づらひ  
しづかきとてあま  
まうりうりうり  
あまの心づらひ  
しづかきとてあま  
まうりうりうり

あまの心づらひ  
しづかきとてあま  
まうりうりうり  
あまの心づらひ  
しづかきとてあま  
まうりうりうり

○心より外より或は中悔をかくして人の心之不慮  
するものなること

○世の常なるもの 万水常の有りては道のよきもの  
かゝることを返るものありと云ふ也

○心よりの心 弄古ゆきものありては不協合なり

○いとくろみもの 或は此尼よりの心よりのもの  
の心をく見んと手習のりものなり

○今人あきまゝ 孟合を捨んとするもの  
もくしぬ

○ひさしよりのもの 或は尼よりの心也

○ちのちのちよ 河古今山里の袂とては  
され鹿のちのちよめとては

あきまゝの心よりのもの  
かゝることを返るものあり  
と云ふ也  
心よりの心 弄古ゆきものあり  
ては不協合なり  
いとくろみもの 或は此尼よりの  
心よりのもの  
の心をく見んと手習のりもの  
なり  
今人あきまゝ 孟合を捨んとする  
ものもくしぬ  
ひさしよりのもの 或は尼よりの  
心也  
ちのちのちよ 河古今山里の袂  
とてはされ鹿のちのちよめとては

あきまゝの心よりのもの  
かゝることを返るものあり  
と云ふ也  
心よりの心 弄古ゆきものあり  
ては不協合なり  
いとくろみもの 或は此尼よりの  
心よりのもの  
の心をく見んと手習のりもの  
なり  
今人あきまゝ 孟合を捨んとする  
ものもくしぬ  
ひさしよりのもの 或は尼よりの  
心也  
ちのちのちよ 河古今山里の袂  
とてはされ鹿のちのちよめとては



○山乃の哥 或按 中將也

○山乃乃哥 中將也 細 ねの板るといふわの  
おいもろくやよこ 巴按 せんれのひまるとの  
ゆるしりやとこ 国よ心こりあし

○此大尼君 花 僧都の母也  
細 此段物語の狂言より

○中くむりの細 むりの尼君れむこの中將也  
といふすしよりいしよとこまへさる也

○つとくの 弄 大尼れむめりの尼よしり初也

○らてより 花 ちか物語りとは初初り系を  
とらんと どり 童女の通辯をへし今の世ま  
何とてしりたり 五音通する人也  
○それよりと 細 中將の心也 是ハ尼君れ母也  
推しころ也

○さくめるさ 弄 中將の心也 老尼の八旬よりハ  
のころめて 若き孫のむまわるといさく 處う  
るもと也  
○いつとつと 万水 中將の初尼君へ琴をまひつ  
の心也

○むりききけり 細 尼君初中將の笛を吹く  
○山をきく 細 いやさき耳なり

山乃乃の歌  
おいもろくやよこ  
ゆるしりやとこ  
此大尼君  
中くむりの細  
つとくの  
らてより  
さくめるさ  
むりききけり  
山をきく

花  
童女  
五音通  
中將の心  
万水  
細  
細  
細



いしししし 細大尼君の氣よわひさる也

いとりのりけうて 河三殿も也

弄女の名は官とよつと常の事也同三のりのり  
のりもれんやつ、そのりやつ、如何一勤のり  
ハ主殿寮也其被官の下部るふいつと官  
ここのりやけハあり伴部ハ書也

今此笛の万水 大尼君の身の事よれハ調  
子よとてさうちの事といふ

皆ことのハ万水 大尼の和琴調子よれハ残  
の琴笛もさうとて大尼君ハ和琴のりさ  
よつちやめてさうとて也

いとちう花 是ハ笛の音けりさこゆ也を  
和琴ハ尼君の引く也唱歌るもよあふ  
後拾遺笛の音の春ぬりさこゆハ花さ  
よつちをさるさ

いとちうも 弄 唱歌の事也

いとちうハ 或抄 中将河 弄初也同上

いとちうの 巴抄 弄初も也

今やうの 孟 當時の人ハ大尼君のつり  
り初也

うよ月比りの 孟 手習の事也

Handwritten musical notation in Kuzushiji style, consisting of rhythmic lines and notes.

。とと。 或抄 喜也

。まねうに。 巴抄 我う。 喜也

。ふらう。 花 中将の文代 釘也

。しと。 中將也 或抄 じうの。 尼君の  
じと。 中將也 つと。 手習の。 喜也

。あや。 手習君と。 喜也  
。ま。 細 我身の。 喜也  
或抄 堪忍の心也

。い。 手習君の。 喜也

。笛の音。 尼君也 巴抄 笛の音。 喜也  
。あや。 後袖の。 喜也

。あや。 物。 細。 喜也  
。あや。 大尼君の。 喜也

Handwritten musical notation in a cursive style, consisting of approximately 12 lines of rhythmic patterns and notes.

Handwritten musical notation in a cursive style, consisting of approximately 12 lines of rhythmic patterns and notes.



。りう〜うね 細尼君の返るるれ也草子也

。あいのこよ花菱のこよ吹きてゆく秋の  
又〜う里と河〜うと〜ん 今葉とれうう海舟  
君の心と〜う也

。ス〜ウ〜ウ〜 世母 白兵部卿の〜う〜う也

。〜う〜う〜 花尼よ〜う〜う也

。り〜う〜う 万水手習の心よ佛と念〜う也

。む〜う〜う 万水手習の心と尼君の心也

あいのこよ花菱のこよ吹きてゆく秋の  
又〜う里と河〜うと〜ん 今葉とれうう海舟  
君の心と〜う也

り〜う〜う 万水手習の心よ佛と念〜う也  
む〜う〜う 万水手習の心と尼君の心也

○いししるる 万水 尼君の心せむとわける也

○くわん人 或抄 手習と我むとわける也

○いさぬ人 孟 手習君と尼君の心せむ也

○あや佛 或抄 観音ハワつくまわるとあやも  
されとも初瀬ハ利生わくも

○いししるる 万水 尼君の心せむとわける也  
○くわん人 或抄 手習と我むとわける也  
○いさぬ人 孟 手習君と尼君の心せむ也  
○あや佛 或抄 観音ハワつくまわるとあやも  
されとも初瀬ハ利生わくも

○あや佛 或抄 観音ハワつくまわるとあやも  
されとも初瀬ハ利生わくも  
○いさぬ人 孟 手習君と尼君の心せむ也  
○くわん人 或抄 手習と我むとわける也  
○いししるる 万水 尼君の心せむとわける也

○くわん人 或抄 手習と我むとわける也

○いししるる 万水 尼君の心手習の心也

いししるる 万水 尼君の心せむとわける也  
くわん人 或抄 手習と我むとわける也  
いさぬ人 孟 手習君と尼君の心せむ也  
あや佛 或抄 観音ハワつくまわるとあやも  
されとも初瀬ハ利生わくも

いししるる 万水 尼君の心せむとわける也  
くわん人 或抄 手習と我むとわける也  
いさぬ人 孟 手習君と尼君の心せむ也  
あや佛 或抄 観音ハワつくまわるとあやも  
されとも初瀬ハ利生わくも

○このくろくで奇 手習也 細初瀬川花の川の人  
二本あり 松年とて又もわひて二本ある  
花鳥の姿二本ハ白官董とていふあうらうらう  
うらも又々後心ハ年とゆくと枝の中ハ三度  
ゆへうとと

○二本ハ 或極 尼君の初又もわひて古奇はり  
ていつり花鳥よいつる二本と白官董と云ハあまうら  
ーあてうらと破から返わりてととれとといふて  
うらとあれハ花鳥の姿可然とや

○花川の奇 尼君也 細手習君誰人ともあれ  
我子のとくとらうと

○まひとれと 細泊瀬へくくくひまんとし

○さうんとく 或極 此人も尼君も又世房と

○こらへんらう 万水 まよりのこといつる女童とや

○わさうらうとる 或極 手習の心也我身上ととらう

○このとく人 細 尼君也

あひしこくわてとてあひて  
うらわてとてせまうら川の  
せまうらひのもゆうとてこの枝  
しむあひひまうらうら  
わまわてとてせまうら  
みわあひまうらんとてあひて  
んわうらうらとてせまうら  
あてうらうらとてせまうら  
あてうらうらとてせまうら  
うらうらうらとてせまうら  
うら川の枝のりてせまうら  
ともあひてとてせまうら

あひてとてせまうら  
うらうらとてせまうら  
うらうらとてせまうら  
うらうらとてせまうら  
うらうらとてせまうら  
うらうらとてせまうら  
うらうらとてせまうら  
うらうらとてせまうら  
うらうらとてせまうら  
うらうらとてせまうら  
うらうらとてせまうら  
うらうらとてせまうら

入  
440

入  
440

○さし入るるも 或按 小野山里のさし入るる體也

○さし入るるも 細女侍尼の御

○いとわろく 或按 其名ハ下手とありしとの説ありされともうんとおぼゆ也  
巴按 和琴の時くるるといふおぼやとありし時の心とくまき也

○さし入るるも 花 姫君女侍尼と其名とありおぼゆ  
姫君よせんとせむをけりしうまをうへ手と直也

○尼上とくろくせ 或按 女侍尼御

○のれ其答そ 万水 尼君の御

○さし入るるも 或按 僧都の其名と自謬しおぼゆ

○さし入るるも 花 備前椽栴良利肥前国藤津郡大村人也出家名寛蓮為高子院殿上法原亭子  
法皇山ゆき時供しきうり大和物語よのせけり其の上手さうよりて其聖といふ延喜三年五月三日奉勅作其名式獻之  
抱朴子曰 困甚者世謂之甚聖故嚴子卿馬經明有甚聖之名也 或書曰唐竟造甚教其子丹朱一説曰不然甚出於戰國之時  
○さし入るるも 花 僧都と尼君とあり  
○さし入るるも 僧都二つまきおぼゆと云也

○さし入るるも 細 手習君の心也

Handwritten text in cursive style (sōsho) covering the bottom half of both pages, likely a copy of the entries above.



○水了も 或按 中将の印

○あやしくもれ 或按 手習の物のぬいせり  
心よとひひらく人とも

○山里の哥 中将也 弄 手習君のゆき  
哀しうとくともうとひとれともう  
ありう

○あま君あまをて 或按 女将尼のうり  
り

○ういのし青 手習也 細 ぢひひらく  
とも甲下とて我身へのぬいせり

○あまのし 万水 必返哥ともて  
女将尼をて中将のうり也

○あまのし 或按 中将の印也

○あやしくも 或按 女将尼の

○入てられハ 孟 さハハととも也

手習

あまのし  
あまのし  
あまのし  
あまのし  
あまのし  
あまのし  
あまのし

あまのし  
あまのし  
あまのし  
あまのし  
あまのし  
あまのし  
あまのし

あまのし  
あまのし  
あまのし  
あまのし  
あまのし  
あまのし  
あまのし







○あきのしるし 或按身をもとせし時物  
もいれしそ也 已下半習君の心

○又あきのしるし 或按身をもとせし時物  
もいれしそ也 已下半習君の心

○あきのしるし 或按身をもとせし時物  
もいれしそ也 已下半習君の心

○あきのしるし 或按身をもとせし時物  
もいれしそ也 已下半習君の心

あきのしるし 或按身をもとせし時物  
もいれしそ也 已下半習君の心



○いしりくの人ハ 或抄 六尼君也

○おまよよく 或抄 手習の調とよき人

○まろひも 孟 下僧のミそ僧都の今日下也

○まろひも 孟 下僧のミそ僧都の今日下也

○まろひも 孟 下僧のミそ僧都の今日下也

○まろひも 孟 下僧のミそ僧都の今日下也

○まろひも 孟 下僧のミそ僧都の今日下也

○まろひも 孟 下僧のミそ僧都の今日下也

○まろひも 孟 下僧のミそ僧都の今日下也

○まろひも 孟 下僧のミそ僧都の今日下也

○まろひも 孟 下僧のミそ僧都の今日下也

○まろひも 孟 下僧のミそ僧都の今日下也

○まろひも 孟 下僧のミそ僧都の今日下也

○まろひも 孟 下僧のミそ僧都の今日下也

○まろひも 孟 下僧のミそ僧都の今日下也

○まろひも 孟 下僧のミそ僧都の今日下也

○まろひも 孟 下僧のミそ僧都の今日下也

○まろひも 孟 下僧のミそ僧都の今日下也

○まろひも 孟 下僧のミそ僧都の今日下也

○まろひも 孟 下僧のミそ僧都の今日下也

○まろひも 孟 下僧のミそ僧都の今日下也

○まろひも 孟 下僧のミそ僧都の今日下也

○まろひも 孟 下僧のミそ僧都の今日下也

○まろひも 孟 下僧のミそ僧都の今日下也

○まろひも 孟 下僧のミそ僧都の今日下也

○まろひも 孟 下僧のミそ僧都の今日下也

○まろひも 孟 下僧のミそ僧都の今日下也

○まろひも 孟 下僧のミそ僧都の今日下也

○まろひも 孟 下僧のミそ僧都の今日下也

○まろひも 孟 下僧のミそ僧都の今日下也

○まろひも 孟 下僧のミそ僧都の今日下也

○まろひも 孟 下僧のミそ僧都の今日下也

○まろひも 孟 下僧のミそ僧都の今日下也

○まろひも 孟 下僧のミそ僧都の今日下也

○まろひも 孟 下僧のミそ僧都の今日下也



○花田頂の法味と云也

○母の法味 細僧部也

○いよそ月よりハ 孟僧部の初也

○ひんりの所方 細尼君を東の方より

○此あそせし人 細手習君也

○まろこよ 或抄大尼君の初也

○いじりまき 孟受戒の初也

○細僧部也

○孟手習君也

○孟不意う僧部の初也

○孟法味の初也  
○孟金言也

Handwritten text in cursive style, likely a transcription of the printed text above. The text is written in a dense, flowing script across multiple lines on both pages.













心ゆくもいれども 或抄 世時危るくの云判也

老翁くく人 或抄 年より人 人出家と  
とてくく人

うとく今ハ 細 手習の心也

世よ人 巴城 世上の 像 聖とくく人  
くく人

うとく今ハ 孟 聖朝の心也

うとく今ハ 巴城 髪 髪のとくく人  
僧都のまへりくく人

うとく今ハ 花 花のくく人  
うとく今ハ 或抄 哥 哥のくく人

うとく今ハ 孟 聖朝の心也  
うとく今ハ 巴城 髪 髪のとくく人  
うとく今ハ 花 花のくく人  
うとく今ハ 或抄 哥 哥のくく人

うとく今ハ 孟 聖朝の心也  
うとく今ハ 巴城 髪 髪のとくく人  
うとく今ハ 花 花のくく人  
うとく今ハ 或抄 哥 哥のくく人



○さくらんご 細文の約也

○さくらんご 奇中将也 弄世の岸の心也  
世扱海士と尼よりうりて我も道心ありとん

○例さくらんご 世扱や出家のれは心也とて也

○今いとしも 世扱くや尼よりうりては曲表  
さくらんごいうちりさくらんご心也

○心と奇 手習也 細海木舟也世とてとて  
より卑下してく世のまていれとてとて

○さくらんご 或扱 手習の約

○中いとしも 或扱 世將尼約

○さくらんご 細 中将の心也

○物まうての人 孟 初瀬より尼君屏也

○うろ身よてハ 細 尼君の約  
孟 尼君の出家の身よてハとてとて

さくらんごの心也  
世扱の心也  
細文の約也  
手習の約也  
初瀬の心也  
尼君の心也  
世將の心也  
細中将の心也  
手習の心也  
孟尼君の心也

さくらんごの心也  
世扱の心也  
細文の約也  
手習の約也  
初瀬の心也  
尼君の心也  
世將の心也  
細中将の心也  
手習の心也  
孟尼君の心也

○佛もろう孟 初頓も手習の祈禱のまじり  
まじりも也

○まじりの名 細む良也 或は手習の心

○いと物くろく 細尼君利也

○はついで心より 或はついで名の字も本も有

○こころをきかす 河小禰 袈裟

○うぶ色と 或はこころのくろく也

○僧都とく尺孟 聊余に尼よりけしと

○まじりの名より 世按 山の座主の祈禱まじり  
まじりも也

まじりもろう孟  
初頓も手習の祈禱の  
まじりも也  
まじりの名  
細む良也 或は手習の心  
いと物くろく  
細尼君利也  
はついで心より  
或はついで名の字も本も有  
こころをきかす  
河小禰 袈裟  
うぶ色と  
或はこころのくろく也  
僧都とく尺孟  
聊余に尼よりけしと  
まじりの名より  
世按 山の座主の祈禱まじり  
まじりも也

まじりもろう孟  
初頓も手習の祈禱の  
まじりも也  
まじりの名  
細む良也 或は手習の心  
いと物くろく  
細尼君利也  
はついで心より  
或はついで名の字も本も有  
こころをきかす  
河小禰 袈裟  
うぶ色と  
或はこころのくろく也  
僧都とく尺孟  
聊余に尼よりけしと  
まじりの名より  
世按 山の座主の祈禱まじり  
まじりも也

よのよ 河夜居 二間の夜居也

ひいろいづく 或母 此間 夜結まゝくくくくひれ  
やせんれいんくくくくくく

あさの帳よ 弄 中官の廿二官と同帳よ  
とれ又云 僧都よりて 同座敷の帳よ

しうりうのまて 細 中官の帳也

世中よ久く 細 僧都の相

佛さくくとく 石水 瑞相ありと何事と

うきおのせし 孟 山麓とありせよ  
出し中官よやう也 仍而啓とあり

しうりうのまて 細 中官の帳也  
あさの帳よ 弄 中官の廿二官と同帳よ  
とれ又云 僧都よりて 同座敷の帳よ  
ひいろいづく 或母 此間 夜結まゝくくくくひれ  
やせんれいんくくくくくく

しうりうのまて 細 中官の帳也  
あさの帳よ 弄 中官の廿二官と同帳よ  
とれ又云 僧都よりて 同座敷の帳よ  
ひいろいづく 或母 此間 夜結まゝくくくくひれ  
やせんれいんくくくくくく

○きうれり河希有事  
孟是より浮舟の事と僧都の事也

○このし巴敷荒て大なるうろた化生の物なり  
あつとして火をくともやまるともあつ

○ゆり病者の或抄母れ大尼のまうひり也

○のろきりし手習君見付りて巻乃  
初めりていふはいふと也  
○きりりりりり或抄中官の返答也

○あつらふを孟中官の此物語とて記してあつ  
くもあつ也  
○宰相君も弄りてあつてあつしあつ  
或抄の事あつてあつしあつ

あつらふを孟中官の此物語とて記してあつ  
くもあつ也  
○宰相君も弄りてあつてあつしあつ  
或抄の事あつてあつしあつ

あつらふを孟中官の此物語とて記してあつ  
くもあつ也  
○宰相君も弄りてあつてあつしあつ  
或抄の事あつてあつしあつ





○まろの中より 河津女成佛事也

○いづつえうらさ 細 忍辱の八端正なる人よ生きて

○そのしうらの 細 浮舟のうらうら人し中宮の  
とひよりけり

○此あまらう人 花 宰相若と云也

○わの君のつへよ 細 二条院よりつへ大君と  
此字治してこそあはれやうとも有へし

○この人せよ 孟 浮舟の人よちりてとも也

○うらうらうらう 弁 まるくの悉敵はあへん  
とてようすぢ人おるるる人  
細 自然うらうらうらうらうとやく僧都も  
くは也

○人よくくすと 万水 小宰相の心也

○んやハ 或抄 明石中宮也

○此へよて 細 小宰相也

○いづつえうらさ 巴抄 必定とてうらうらうらう

○いづつえうらさ 或抄 甚也

いづつえうらさ 細 忍辱の八端正なる人よ生きて  
そのしうらの 細 浮舟のうらうら人し中宮の  
とひよりけり  
此あまらう人 花 宰相若と云也  
わの君のつへよ 細 二条院よりつへ大君と  
此字治してこそあはれやうとも有へし  
この人せよ 孟 浮舟の人よちりてとも也

いづつえうらさ 巴抄 必定とてうらうらうらう  
いづつえうらさ 或抄 甚也  
人よくくすと 万水 小宰相の心也  
んやハ 或抄 明石中宮也  
此へよて 細 小宰相也  
いづつえうらさ 巴抄 必定とてうらうらうらう  
いづつえうらさ 或抄 甚也



薄くしては君思のこころもいづかすは命の

わごころよよと入るや取入ていつか

○松門は曉 河松門曉到月徘徊栢城蓋日風

蕭瑟自氏文集同陵園垂

○弄徘徊とくハ月のめづる心也陵園垂官舎の

君思のわづらと後ハ陵園のせと成てつゝ今也

手習君の小野は任ぬは似たり

○そやうくと 細手習の心也

○きひひひのこも 弄 陵園垂は栢城蓋日風蕭

瑟とあれはその河はよりていつ

○哀山仰ハ 弄 出家のハもつら涙ぬこゝろ心

細山伏のそはをきこ嵐も何とらさるゝ今

日ハハハハハハ

○これも今ハ 細手習の心也

○あひひひ 細河の河と僧都は山(のや)

はくはくハ 或抄 手習の五出てる也

○谷の形ハより 河夢浮橋をよ谷はれおとあり

其心同也

○ころ谷とり 河黒谷穀山より

○例のとく、世抄 手習の常は人と常くそ心

○うひさのこころ 万水 手習の尾よりつらハ今ハ

うひさをたももくもその名残といふとそ来

きこ也

いのりハおもひのうすこころとく

ひひさくせえ 松門はあつらふ

りて月をいづかのこころかりし

とつらししししししししし

さゆそののまもももももも

やうもつひまもももももも

わさうさうさうさうさうさ

乃をまもももももももも

おつらう人もおつらう人も

月あそび縁らるるるるるる

りりりりりりりりりりり

ううううううううううう

なりなりとるりりりりりり

日まももももももももも

形むようりりりりりりりり

まもももももももももも

よもももももももももも

いとほもももももももも

かすわあももももももも

ももももももももももも

らもももももももももも

はのののののののののの

しあふもももももももも

らもももももももももも



○五重の扇と河冬扇より三重五重と

揚の三重とよみありし類也

花より尾の髪のかきく扇とひらき

○木丁よ或扱昔ハ念珠と

Handwritten text in cursive script, likely a list or inventory of items mentioned in the adjacent column.

○木丁よ 孟中持よス

○いこくハ 或扱 中持の心也

○巴扱中持の尾よ

○細中持の心

○万水中持の心

Handwritten text in cursive script, continuing the list or inventory from the adjacent column.

○ちや〜〜〜益い〜〜中持の御

○中〜尺と〜ちや御尼と〜〜〜

○まよや〜 或換 尼君〜〜〜

○下のほのろ 細 中持の御也  
或換 世帯嫁娶のまよ〜〜〜後見也と

○こ〜〜乃 細 故姫君のまよ〜〜〜

○いとゆ〜 末 細 尼君の御手習君のまよ〜

Handwritten musical notation in a cursive style, consisting of approximately 15 lines of notes and rests.

Handwritten musical notation in a cursive style, consisting of approximately 15 lines of notes and rests.

○此尼君も花中將の心より人々此姫君もよき人  
なりしなりとて中將おなりしなり

○ゆゑま乃 細 中將の詞

○人ののきききき 或は手習へ中將の消息也

○今ハハハハハ 世世誰も手習へ中將の消息也

○人々もももも 細 尼君の詞

○今ハハハハハ 細 後世の心より人々此姫君もよき人

○人ののきききき 或は手習へ中將の消息也

○今ハハハハハ 世世誰も手習へ中將の消息也

○大くは乃奇 中將也 細もは我身といひし故  
よりし心よりし人ハ我身といひし故

○今ハハハハハ 或は中將の兄弟の心より人々

Handwritten Japanese text in a cursive style, likely a transcription of the text above or related content, spanning across the right side of both pages.



○心持しん 五水手習の返答卑下して

○此の上よ 孟いしよよそくしある奇れ違ハ  
手習いぬ  
○ありひらると 細 手習君の心也  
政按 白官火よをとりてくるいれんがたし

○とてくろふさの 河 秋、固、可使如橋木而心固可  
使如死灰乎 藤子 細橋木死灰のこゝそをえ

○此のいのち 孟 出家して手習の心うらうら

○とてくろふさの 或 母さうさうえん六とさうし

○やき経ハさう也 或 抄 法華經ハハよ不足別の法

○年七りうぬ 細 冬よりうらうら也

○年七りうぬ 細 若草七歳也

○君よきまじり 河 矢部御宮のさう也 筆のぞけり此水  
とありさう也

地さうおひのままてはなぐ

まあんたてひりしてはなぐ

うんじおんてはなぐ

もわらさうはなぐ

いくしのかいよはなぐ

いらりおんさうはなぐ

まわらさうはなぐ

いらりおんさうはなぐ

らあさうはなぐ

あんたてひりしてはなぐ

うんじおんてはなぐ

もわらさうはなぐ

いくしのかいよはなぐ

いらりおんさうはなぐ

まわらさうはなぐ

いらりおんさうはなぐ

あわさうはなぐ

うんじおんてはなぐ

もわらさうはなぐ

いくしのかいよはなぐ

いらりおんさうはなぐ

あわさうはなぐ

うんじおんてはなぐ

もわらさうはなぐ

○とくくと哥 手習也 孟是し下句面白哥也

○ありし出る時し 弄白官芝母のうらみし

○とらるるるこよ 河實方朝臣銀籠よ入て田鞆院は獻とわり

○山里の哥 尼君也 細姫君と祝しる也

○ふるふるよ 万水 手習のうらみ也

○雪ゆきしき 手習也 細尼君のうらみし

○さそめゆきしん 或抄 手習は返哥よ別よあひん  
人しき今よりハ尼君と長久しきわつとそそめ  
よ尼君の上也

○アツくひめつ 孟 手習の尼よそそめハと

○春やむくの河目やわん春やむくの春やわ  
我がいとわん身の身よて

○わさりし 弄 白官は手習の心をらりし  
やと也 細芝もよ白官もよ也 河わり

手習

うらみしき  
あひん  
とらるるるこよ  
ありし出る時し

さそめゆきしん  
雪ゆきしき  
ふるふるよ

山里の哥  
ありし出る時し  
とらるるるこよ

万水  
雪ゆきしき  
ふるふるよ

雪ゆきしき  
ふるふるよ  
ありし出る時し

ありし出る時し  
とらるるるこよ  
山里の哥

山里の哥  
ありし出る時し  
とらるるるこよ

とらるるるこよ  
ありし出る時し  
さそめゆきしん

さそめゆきしん  
雪ゆきしき  
ふるふるよ

ふるふるよ  
ありし出る時し  
とらるるるこよ

とらるるるこよ  
ありし出る時し  
山里の哥

山里の哥  
ありし出る時し  
とらるるるこよ

とらるるるこよ  
ありし出る時し  
さそめゆきしん

君う白ひのこひしきは梅花もそもいふは  
のこはよ 細 後夜也

○うしろくさく 或抄 おとくろやうの花のらぶ也

○袖ゆかり哥 手習也 或按 手習守治と、白官よ  
心のひやうきりし本心よりてはまはれよと云  
又の段白官のうしろくさく

○何よりま年おし 細一任の回し

○かきくさく 細大尼君のやきとらういふ

○いとしらふ 細 尼君ハ也

○いとこころ 或抄 紀伊守詞

○おやこら 或抄 紀伊守兩親共よと也紀伊守の母ハ  
此大尼のひとめ也

○ひられや方 細 花鳥海舟の母とありいふこれハ  
當時の常陸守と云ふ

○年月は 細 尼君の約也と云ふ

しほひのこひしきは梅花もそもいふは  
よあはれまらせむねきしめれ  
乃まらしむらあかりしそ花  
をあられがうとあしり  
よとまらひられが

袖ゆかりのこひしきは梅花の  
心のひやうきりし本心よりてはまはれよと云  
又の段白官のうしろくさく  
何よりま年おし 細一任の回し  
かきくさく 細大尼君のやきとらういふ  
いとこころ 細 尼君ハ也  
いとこころ 或抄 紀伊守詞

おやこら 或抄 紀伊守兩親共よと也紀伊守の母ハ  
此大尼のひとめ也  
ひられや方 細 花鳥海舟の母とありいふこれハ  
當時の常陸守と云ふ  
年月は 細 尼君の約也と云ふ







○こまねねてぬよ 細 手習の心也

○いゝ母君の孟 紀伊守の語とててきんのもまね  
ねいねいおろろと母君の心とててきんのもまね  
○いゝいゝおろろ 或抄 尼よるいゝいゝの母よるいゝ  
とろろとてきん

○うのくろ乃 孟 是ハ紀伊守の調進とて其の装束と  
尼君とて 調る也

○あや〜 或抄 手習の心よけとて也

○いゝせほハ花 さいない人の心とててきんのもまね也  
或抄 物りとも也いゝいゝ入てり也

○いゝせほハ花 さいない人の心とててきんのもまね也  
或抄 物りとも也いゝいゝ入てり也

○いゝのてりもの 巴抄 綾紋ハ様

○あまのよハ孟 名うのれとててきんのもまねとて  
あまのよ〜 皆〜とて也

○あまの衣哥 手習也 孟 此心ハ尼よるいゝいゝの心  
うの装束とててきんのもまねとててきんのもまね

いゝいゝのてりもの 巴抄 綾紋ハ様  
あまのよハ孟 名うのれとててきんのもまねとて  
あまのよ〜 皆〜とて也  
いゝせほハ花 さいない人の心とててきんのもまね也  
或抄 物りとも也いゝいゝ入てり也  
いゝのてりもの 巴抄 綾紋ハ様  
あまのよハ孟 名うのれとててきんのもまねとて  
あまのよ〜 皆〜とて也  
あまの衣哥 手習也 孟 此心ハ尼よるいゝいゝの心  
うの装束とててきんのもまねとててきんのもまね

いゝいゝのてりもの 巴抄 綾紋ハ様  
あまのよハ孟 名うのれとててきんのもまねとて  
あまのよ〜 皆〜とて也  
いゝせほハ花 さいない人の心とててきんのもまね也  
或抄 物りとも也いゝいゝ入てり也  
いゝのてりもの 巴抄 綾紋ハ様  
あまのよハ孟 名うのれとててきんのもまねとて  
あまのよ〜 皆〜とて也  
あまの衣哥 手習也 孟 此心ハ尼よるいゝいゝの心  
うの装束とててきんのもまねとててきんのもまね

我々の法事(料也)昔(と)云(は)ふ

○うしろくろえ 或換 尼君のちんちんあておぬ也

○まじりの細(うしろくろえ)のちんちんあて  
或換 手習の詞也

○まじり(うしろくろえ) 細 尼君の詞

○むろの人 花 尼君の我いよれよとよのちんちんあ

○まじり(うしろくろえ) 或換 我いよれよとよのちんちんあ

○まじり(うしろくろえ) 母君のあつて

○うしろくろえ(うしろくろえ) 孟 尼君のいよれよとよのちんちんあ  
のまじり(うしろくろえ) 我いよれよとよのちんちんあ  
まじり(うしろくろえ) ちんちんあておぬ也  
れれれれれ 殊更生別よれよとよのちんちんあ  
わんてん

○まじり(うしろくろえ) 細 手習の詞  
花 浮舟君の母れ也

さのころの袖とてはる  
しんちんあておぬ也  
かんぼしんちんあておぬ也  
れれれれれ  
まじり(うしろくろえ)のちんちんあ  
うしろくろえ(うしろくろえ)のちんちんあ  
まじり(うしろくろえ)のちんちんあ  
れれれれれ  
うしろくろえ(うしろくろえ)のちんちんあ

のちんちんあ  
まじり(うしろくろえ)のちんちんあ  
うしろくろえ(うしろくろえ)のちんちんあ  
まじり(うしろくろえ)のちんちんあ  
れれれれれ  
うしろくろえ(うしろくろえ)のちんちんあ  
まじり(うしろくろえ)のちんちんあ  
れれれれれ  
うしろくろえ(うしろくろえ)のちんちんあ









○うのへく 拜 現在のふくむ身よりよきものを  
まてうき飲のふくむれんもいひつていふべし

○世入るも 或按 小宰相のふくむるものよきもの

○ちとちや 万水 芝の初手習れるもの世に  
ふくむ也

○うの僧都の 万水 小宰相の和

○さうり 尺の或按 手習の出家の本意はさうり  
もて尼よりしと世都のつひるものよきもの  
○ちとちや 万水 今うきものも世にそのものよき  
或按 以下芝の心也

○ちとちや 万水 今うきものも世にそのものよき  
或按 以下芝の心也

○さうり 尺の或按 手習の出家の本意はさうり  
もて尼よりしと世都のつひるものよきもの

○ちとちや 万水 今うきものも世にそのものよき  
或按 以下芝の心也

ちとちや 万水 今うきものも世にそのものよき  
或按 以下芝の心也  
さうり 尺の或按 手習の出家の本意はさうり  
もて尼よりしと世都のつひるものよきもの

ちとちや 万水 今うきものも世にそのものよき  
或按 以下芝の心也  
さうり 尺の或按 手習の出家の本意はさうり  
もて尼よりしと世都のつひるものよきもの



○人のこゝろを海舟  
あかりし人々の  
はうつんまのこゝろ

○今こゝろ世扱まへくの様解と世中宮へりし様

○又々のこゝろと花白宮のこゝろ也

○このや 或扱 董の和也 手習のこゝろ 白宮のこゝろ也  
こゝろのこゝろ

○うゝとふくまへ 世扱 海舟在世のこゝろ 世中宮のこゝろ也  
こゝろのこゝろ

○こゝろのこゝろし 或扱 中宮のこゝろ

○このや 或扱 董の和也 手習のこゝろ 白宮のこゝろ也

○このや 或扱 董の和也 手習のこゝろ 白宮のこゝろ也  
こゝろのこゝろ

○このや 或扱 董の和也 手習のこゝろ 白宮のこゝろ也  
こゝろのこゝろ

○このや 或扱 董の和也 手習のこゝろ 白宮のこゝろ也  
こゝろのこゝろ

人のこゝろを海舟  
あかりし人々の  
はうつんまのこゝろ  
今こゝろ世扱まへくの様解と世中宮へりし様  
又々のこゝろと花白宮のこゝろ也  
このや 或扱 董の和也 手習のこゝろ 白宮のこゝろ也  
こゝろのこゝろ  
うゝとふくまへ 世扱 海舟在世のこゝろ 世中宮のこゝろ也  
こゝろのこゝろ  
こゝろのこゝろし 或扱 中宮のこゝろ  
このや 或扱 董の和也 手習のこゝろ 白宮のこゝろ也  
このや 或扱 董の和也 手習のこゝろ 白宮のこゝろ也  
このや 或扱 董の和也 手習のこゝろ 白宮のこゝろ也  
こゝろのこゝろ  
このや 或扱 董の和也 手習のこゝろ 白宮のこゝろ也  
こゝろのこゝろ  
このや 或扱 董の和也 手習のこゝろ 白宮のこゝろ也  
こゝろのこゝろ

人のこゝろを海舟  
あかりし人々の  
はうつんまのこゝろ  
今こゝろ世扱まへくの様解と世中宮へりし様  
又々のこゝろと花白宮のこゝろ也  
このや 或扱 董の和也 手習のこゝろ 白宮のこゝろ也  
こゝろのこゝろ  
うゝとふくまへ 世扱 海舟在世のこゝろ 世中宮のこゝろ也  
こゝろのこゝろ  
こゝろのこゝろし 或扱 中宮のこゝろ  
このや 或扱 董の和也 手習のこゝろ 白宮のこゝろ也  
このや 或扱 董の和也 手習のこゝろ 白宮のこゝろ也  
このや 或扱 董の和也 手習のこゝろ 白宮のこゝろ也  
こゝろのこゝろ  
このや 或扱 董の和也 手習のこゝろ 白宮のこゝろ也  
こゝろのこゝろ  
このや 或扱 董の和也 手習のこゝろ 白宮のこゝろ也  
こゝろのこゝろ







